

令和6年度 自己評価 及び 学校関係者評価書

令和7年 3月1日
札幌市立平岡中央中学校

1 本年度の重点目標

1 心よせあう人間関係の醸成 2 分かる・できる・楽しい授業作り 3 個別支援の充実 4 「働き方改革」の推進と支え合い教育の質を高める教職員集団 5 信頼される学校づくり 6 義務教育9年間を見通した、小中一貫した教育の推進
--

2 本年度の経営方針

1 人間尊重の教育の推進 (1) 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり (2) 教職員自らの人間尊重の意識向上 2 学びの質を高める教育の推進 (1) 知・徳・体の調和のとれた育ち (2) 子どもの発達への支援 (3) 信頼される学校の創造
--

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	重点目標は、学校教育目標の達成を目指すために、生徒の実態から見て適切な内容である。	A	本校の現状を踏まえ、学校教育目標達成をより高いレベルで目指すための重点目標となっている。具体的な手立ての充実を今後も図っていく。	A	A
	学校の姿勢や生徒の活動のようすを正しく理解してもらうための取組を工夫している。	A	学校だより、HP、すぐーる（学校保護者連絡システム）等で生徒の活動の様子や、学校からの情報を発信してきた。より良い発信の在り方を検証しながら、保護者の理解を深めることができるよう努めていく。	A	A
	生徒は意欲的に諸活動に取り組み、生き生きとした学校生活を送っている。	A	諸活動への取り組みに対する生徒自身の評価は高く、意欲的に活動した。引き続き生徒が達成感や成就感を得られるよう支援していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		大変に落ち着いた環境の中で、教育活動が行われたことが理解できました。平岡中央中の重点目標に真剣に取り組み、高いレベルで成果を出したものと思います。			
学習指導	生徒に目標をもたせ、学習状況を知らせるための評価のあり方と伝え方を工夫し、学習意欲の喚起に努めている。	A	学校全体が落ち着いた状況で意欲的に学習活動に取り組んでいる。今後も授業実践を通じた指導と評価の一体化を目指し、授業改善に努め、生徒の学習意欲の向上につなげていく。	A	A
	関心・意欲や考える力を重視した、体験的・課題探究的な学習指導を行っている。	A	AARサイクル（見通し、行動、振り返り）を通じた課題探究的な学習を試行錯誤しながら行った。札幌市が掲げる「本物の経験」を、どのように学習に落とし込むかを、研修を通じて模索していく。	A	A
	学習内容や目標を明確にして指導計画の充実を図り、教材や教育機器の効果的な活用にも努めている。	A	「個別最適な学び」の要素である「学習の個性化」を促す一人一台端末を積極的に活用し、充実した。教職員研修を通じて、より効果的な活用方法を模索していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		生徒一人一人への新しい指導方法（個別最適な学び、タブレットの活用等）を取り入れた学びに向けて、先生方が前向きに取り組んでいることが教育活動の充実につながっていると考えられます。			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	個を大切に、共感的な指導にあたるとともに、社会性や秩序についても意識させる指導を実践している。	A	多様な生徒との日常的な触れ合いを重視することで、生徒一人一人が自身の課題や仲間との望ましいあり方を考える姿勢を、今後も育んでいく。	A	A
	相談活動の充実を図り、個々の生徒の悩みや保護者の願いを受けとめ、迅速・的確な対応が可能な体制づくりを行っている。	A	日常的に生徒や保護者と対話を重ねることで相談活動の充実を図り、本校の「いじめ対策基本方針」に則して、未然防止、早期発見、早期対応に努めていく。	A	A
	落ち着いて諸活動に取り組むことができる集団づくりや、環境の整備に努めている。	A	生徒の生活状態に気を配り、意欲的に諸活動に取り組むことができる環境維持に努めた。委員会活動の充実や生徒作品の校内展示等を通して、生徒が環境を大切に思い、互いに高め合う姿勢を育んでいく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		個々の生徒に寄り添った指導が行われていると思います。不登校の生徒が自宅で取り組んでいることに目を向けて評価する体制に安心しています。「学校に来ることだけがその子の人生ではない」との言葉はとても素晴らしいと思います。課題を抱えている生徒に目が届く指導を期待します。			
その他	校風や伝統を生かした行事や活動を工夫し、学校行事等を通して多様な生活体験をさせている。	A	学校祭、合唱発表会などの行事では意欲的な活動が見られた。日常のあいさつも「何時でも・誰にでも・何回でも」を合言葉に向上した。「平岡中央中学校らしさとは何か」を生徒とともに見つめ、校風や伝統づくりにつながるよう活動のさらなる充実を図っていく。	A	A
	部活動を通して生徒の生き生きとした活動を促し、個の伸長とともに、社会性や協力などの望ましいあり方を学ぶ機会を提供できている。	A	各部とも意欲的に活動している。全市大会、全道大会、全国大会で活躍する部活動も増え、社会性や協働性なども身に付いてきている。次年度もより充実した活動になるように努めていく。	A	A
	交通安全指導や登下校指導等を含む日常の安全指導を計画的に行っている。	A	保護者や地域とのさらなる連携や、安全意識の向上に努めていく。	A	A
	各種調査なども活用し、心身の健康管理ができるよう指導・助言に努めている。	A	生徒の心身の健康を第一に細心の注意を払い、状況に応じた最善の対応を行った。今後も担任や養護教諭、スクールカウンセラーによる相談活動を通して、心身の健康管理の助言を行っていく。	A	A
	生徒・保護者・地域からの意見や要望を聞く場を設けている。それらを尊重し、学校改善に生かしている。	A	PTA を大きく改革し、保護者が参加しやすい環境づくりに努めている。今後も保護者・地域からの意見や要望、学校評価アンケートの内容を、学校改善に生かしていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		挨拶、合唱など、本校の伝統を大切にしているところは素晴らしいと思います。今後も良き伝統としてください。PTA活動については、柔軟に行う事は良い取り組みだと思います。PTAの活性化が地域の活性化につながると思います。			
学校運営・組織・研修	生徒個々への配慮や支援に関して全職員の共通理解が図られている。	A	生徒指導研修会や職員会議を通して教職員の共通理解を深めている。また、学びの支援委員会において支援計画を立案し、個々の支援にあたっている。その内容も念頭に置きながら、全職員で生徒の実態にあった指導を行っていく。	A	A
	授業公開など、授業の工夫・改善のための研修が計画的に行われている。	A	小中一貫として授業公開を行い、パートナー校の教職員と共同研修を行った。義務教育9年間を見通した授業改善を引き続き行っていく。	A	A
	安全管理・危機管理などについて全職員に共通理解され、徹底している。	A	施設設備の管理・点検、地震や火災に対する避難方法・不審者への対応方法の確認を定期的に行うことにより、日常における危機管理意識の向上に努めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		先生方の積極的な関わりが感じられました。家庭や社会の変化に学校が対応していくことは簡単ではないかもしれませんが、地道な取り組みを期待しています。また、全体を通じて達成状況がすべてA評価となっていますが、これに満足することなく、更なる高みを目指してほしいと思います。			